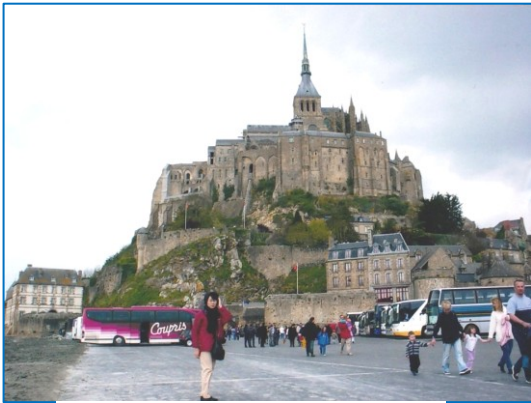


トンボロの江ノ島とモン・サン・ミッシェル

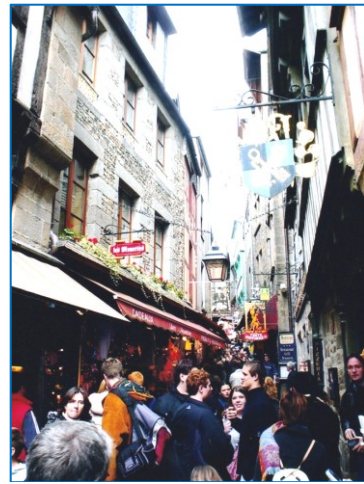
八柳 修之

トンボロとはイタリア語で普段は海によって隔てられている陸地と島が干潮時に干上がった海底で繋がる現象である。フランスのモン・ミッシェル、江ノ島が知られ、両者ともに古来、信仰の島であるとともに観光地でいずれも首都から近い。

モン・サン・ミッシェルは古来、先住民のケルト人が信仰する島であったが、708年、司教オペールが天使ミカエルから「この岩山に聖堂を建てよ」とのお告げを受けて建てたのが始まりとされる。モン・サン・ミッシェルのあるフランス西海岸サンマロ湾は潮の干満の差が激しいところで、大潮の際には引き潮により沖合 10km まで引いた潮が、猛烈な速度で押し寄せるため、多くの巡礼者が命を落とした。このため、1877年（明治 10）に対岸との間に地続きの道路を造った。しかし、景観を取り戻す声が高まり道路を取り壊し全長 760m の橋を架ける工事を 8 年間かかり 2014 年に完成した。島の周囲は 900m、修道院教会は標高 80m の岩山の頂上、長さ 80m に及ぶ土台上にある。



2004年、連絡橋未完成の頃



参道が狭くお土産物、食べ物屋が多いのは江ノ島も同じ

一方、江ノ島は 552 年、欽明天皇の勅命により洞窟にお宮を建てたのが始まりとされる。江戸時代になって大山詣でとともに江ノ島詣で賑わった。その様子は歌川広重の浮世絵などによって知ることができる。江ノ島の周囲は約 4km、灯台がある地点は平均海拔 120m、参道も迂回しておりエスカーもあるからモン・サン・ミッシェルより上るのは楽である。

江ノ島には 1891 年（明治 24）に木造の栈橋が架けられ橋銭が徴収された。橋銭はその後廃止されたが、関東大震災の際、流されたりして粗末なものであった。昭和 24 年に長さ 389m、幅員 3.7m の鉄筋コンクリートの橋、「江ノ島弁天橋」に架け換えられた。また、1963 年（昭和 38）に東京オリンピックに際し、自動車専用の江ノ島大橋が架けられた。現在、東京 2020 オリンピックに際し 3 車線に拡幅工事中である。



歌川広重 (1797 年~1858 年)



2017 年 5 月のウォークメイト例会

ところで、江ノ島を日本のモン・サン・ミッシェルと称したのは、ワシントンのポトマック河畔の日米友好の桜を植えることに尽力したシドモアで、その著「シドモア日本紀行」の江ノ島の項の中に日本版モン・サン・ミッシェルと書いているとのことである。宮島のある甘日市市は目ざとく 2009 年モン・サン・ミッシェルと観光友好都市提携をしている。もともと同じころ、片瀬海岸は東洋のマイアミ・ビーチと宣伝していた。モン・サン・ミッシェルの名物はオムレツ、宮島は紅葉饅頭であるが、江ノ島の名物は何？、生シラス、夫婦饅頭、海苔羊羹、タコ煎餅である。

参考資料:モン・サン・ミシエル修道院案内書。江ノ島とモン・サン・ミシエル 寺田克彦 江ノ電新聞 2013 年 7 月 1 日号。HP 観光友好都市提携宮島。地理用語集 山川出版。